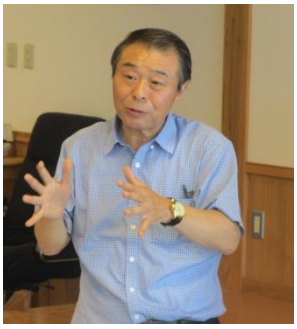
2018
7月20日

つながる「ふるさと」、オガチの底ヂカラ　プロジェクト
第２回ジバゼミレポート

秋田県雄勝地域振興局

「メイド・イン・アキタにかける思い」

～ 株式会社秋田研磨工業～



【開催日】平成３０年７月２０日
【講師】株式会社秋田研磨工業　代表取締役　阿部　忠雄氏
【会社概要】
　阿部代表取締役は羽後町出身。大手メーカー勤務を経て1985年5月に独立開業。時計のカバーガラスや、電子部品等のサファイアガラスのカットと高度技術加工で、国内外のメーカーから受注を集める。加工が難しいサファイヤやルビーで、歩留まり99.9%という数字はまさに驚異的。
　昨年12月、湯沢市伝統の川連塗りなどをあしらった高級万年筆「KEMMA」を発売開始。今年3月には、日本橋三越本店で開かれた「世界の万年筆祭」に出展し大きな話題を呼んだ。

■「絶対に、社長になる！」設計図の原点は、両親の姿にあった

羽後町軽井沢で生まれ育った阿部社長。幼少時は相当な“きがねわらし（＝秋田の方言で「やんちゃな子ども」の意味）”だったそうです。実家は炭焼きで生計を立てていました。ご両親は早起きで、朝から晩までとにかく一生懸命働く姿を見て育ったそうです。この頃から「社長になる！」という思いが膨らみ始めました。

その後、地元高校を卒業し、県臨時職員として半年余り勤めた後、地元大手メーカーに勤務。当初、総務部門に配属されましたが、すぐに頭角を現し、間もなくサファイヤの研究部門へと抜擢されました。

しかし、そこで待ち受けていた壁は、自らの技術面での知識のなさ。ところが、ここで役立ったのが、ご両親が行っていたという炭焼きの工程や手順でした。どの仕事にも共通する数々の工程を身をもって学んでいたおかげで、新しい開発にも臆することなく、何もないところから研究を積み重ね、自身の知識と技術を磨いていきました。

その後、1985年に独立し現在地で創業。幼少時「社長になる！」という夢を描いた設計図がもとになり、経験したどのプロセスも今に結びついていると実感しているそうです。

■　株式会社秋田研磨工業　強さの秘密

一見、華々しく見える業界ですが、サファイヤ研磨は特にその加工が非常に難しく、また、秋田研磨工業は材料製造を扱わない点でも、大手他社とは大きく異なる事情があります。

国内メーカーの中には、採算を重視する余り、あえて内製化に踏み切り、材料不良による負のスパイラルに陥ってしまうパターンも多くあるという厳しい現実。こうしたなか、株式会社秋田研磨工業は歩留まり９９．９％という高い技術力を強みに信頼を得ながら、しっかりとその礎を築いてきました。

また、従業員を守るという大命題から、本業との受注バランスをとりながら、一定の戦略と見通しを持って、常に新規事業や開発に取り組むことにも挑戦し続けています。

2020年東京オリンピックに向けての
開発商品も見せていただきました。

■「KEMMA」がもたらしたもの

こうした中で生まれたのが、サファイヤのペン先を持つ万年筆「KEMMA」。最初は「サファイヤなら半永久的に使用可能になるのでは」とのひらめきが始まりだったそうですが、研究すればするほど奥が深い分野であることを痛感。開発に約７年の年月をかけ、最終的には特許を取得するに至りました。

研究に費やした費用は相当なものでしたが、**高級万年筆「KEMMA」の話題性とともに自社のブランド化が図られた**こと。これが、**本業部門の技術力の高さを証明する結果**にも結びつき、全国各地から問い合わせが相次ぐなど、**多方面へのビジネスにつながっている**ことを強く実感しているそうです。

サファイヤのペン先で試し書き。
重厚感があり、文字が揺れないのが特長。
まさに「一人で字が走り出す」ことを実感。

■　阿部社長　名言集！

①周囲に**存在するもの全てに価値**がある。
いかに生かすか、その感覚こそが大事。

②大人が持つ**技術を掘り起こし、地域の子どもたちに継承する**こと。この思いから生まれた「KEMMA」は、地元企業とのコラボを生み出す、まさに絶好の機会になった。

③倉庫に眠る古い機械も、パーツ取り替えで極力生かす。無用な投資をしない。
これぞ中小企業の強み。
若手に、こうした技術を伝えることに注力し続ける。

おもちゃは“ヒントの宝庫”！
時代を先読みした感覚を読み取ります

既に、30年前に時代を先読み！？
35歳当時の社長のビデオから抜粋

・若年者が県外に転出しないよう、雇用の場を確保します
・若手定着のために、年配者を多く採用し、社内での若手教育システムを構築します
・心身に障害を持つ方の採用も積極的に行い、障害者のご家族が安心できる環境を整えます
・高い技術の提供とともに、給料・ボーナスと、地域のトップクラスを目指します
・幹部が社員の相談や悩み事をどんどんきく環境を整えます
・レクレーションや福利厚生施設を充実させ、楽しい会社生活を目指します

■参加者の感想

・まずは技術力の高さを感じた。一方で、工業製品メーカーがおかれた環境と、スピード感、瞬時の決断力が必要で、ここに身を投じなければいけない厳しい現実を知った。これこそが、常に新しい技術、特に進化した技術を継承していかなければいけない部分だととらえた。

・阿部社長には**技術経営者**という言葉がふさわしい。大手企業との交渉戦術ができるのも、技術・経営の両者どちらの感覚も持ち合わせているゆえの強みだと感じる。

・社長のパワーをすごく感じた。万年筆を持っていない人も相当いるなかで、技術から入っていったこと、技術者が市場のマーケットまでもにらんで展開していることなどが素晴らしい。

・技術的な高さはもちろん、**人に対する情熱がものすごい**。
特に若い人の話を聴く姿勢。一人でなく仲間で、他社と連携する姿勢など、人を育てる力を感じた。**技術と人づくりが合わさって、まさに技術の継承につながっていることを感じとった。**

秋田研磨工業さんが持つ力とは、何か。
参加者全員で意見交換しました。

株式会社秋田研磨工業様、そして参加してくださいました皆さま。
ご協力いただきまして、本当にありがとうございました